（別記様式第４号）

# 普及活動検討委員会評価結果及び意見等に対する対応方向

実施月日：令和７年３月１８日
実施場所：宮城県行政庁舎１００２会議室

## １　委員

| 所　　属 | 氏　　名 | 所　　属 | 氏　　名 |
|---|---|---|---|
| 公立大学法人宮城大学 | 川島 滋和 | 宮城県認定農業者組織連絡協議会 | 針生 信夫 |
| 宮城県農業士会 | 小林 郁恵 | ヤンマーアグリジャパン株式会社 | 齋藤 富士男 |
| 全国農業協同組合連合会宮城県本部 | 衣川 喜博 | | |

## ２　検討内容

| | 検　討　項　目 |
|---|---|
| (1)令和６年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の取組について | ①作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用<br>②土地利用型園芸品目の定着に向けた要因解析による生産性向上 |
| (2)令和７年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の計画について | ①環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築<br>②作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用 |

## ３　委員の評価と県としての対応方向

| 検討項目 | 評価値（委員平均） | 評価結果（コメント、評価表の要約） | 県としての対応方向 |
|---|---|---|---|
| 令和６年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（実績）<br><br>①「作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用」 | 3.4 | ・概ね50%程度の作業時間の減少という定量的な結果を示したことは、技術導入の可否判断に資する重要な情報になった。<br>・今後は、作業全体の中でどのくらい作業時間を減少できるのか、作付面積をどのくらい拡大できるのかといった、経営全体の視点から効果検証が求められる。 | 農業経営が多様化しており、経営体の置かれた状況により適する技術や導入効果が異なると考えております。今回の実証では、技術の時間削減効果を示すことで、各経営体が自信の経営にあてはめて導入の可否を判断できるような材料を示すことにしております。 |
| | | ・スマート農業としては当たり前の話しかできていない。<br>・宮城県独自の農業戦略に基づいた「戦略的なスマート農業」の再検討が必要ではないか。 | RTK 基地局の整備により、先進的な農業者だけでなく、広くスマート農業に取り組める基盤ができ、裾野が広がりつつあると感じています。その中で、RTK を上手く活用した事例として今回の実証に取り組んでおります。今後は、AI などの技術革新が進むなか、農業分野への活用や農業者が抱える課題への対応など、現場の意見を効きながら、宮城のスマート農業の方向性を検討していきたいと考えております。 |
| | | ・平坦な大区画ほ場では、省力化・効率化に繋がると思う。<br>・更なる操作の簡略化と、研修会等の回数を増やしてはどうか。 | 本県は、ほ場整備による大区画化などにより、スマート農業が導入しやすい環境にあり、実証でも一定の効果がでています。一方で、中山間地でのスマート農業の効果は、平坦地域ほど高くなく、中山間地に合った技術開発や効果的な使い方を検討し、普及拡大していく必要があると考えています。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・実証事例を積み重ねていくことは有用。実証①-1は、作業時間の比較にとどまらず、セクションコントロール利用による農薬の低減効果等、他の効果も期待できるのではないか。<br>・実証②-1の可変施肥は、生育の均一化による収量向上が期待できる。<br>・アグリテック導入や普及は、どのような経営体に導入を推奨するのか、オペレーターの負荷の軽減効果、経営面積の拡大、収入増にどのような道筋で繋がっていくのか等も含めて検討してほしい。 | 今回は、農薬の散布量は同程度でしたが、特に変形田などでは、セクションコントロールの活用で、無駄な散布を削減できると考えます。可変施肥では、均一散布よりも収量が向上したほ場もありました。肥料を効率よく利用できるので、収量向上や肥料費の削減なども検証したいと考えています。<br>アグリテックの導入効果は、経営体によって様々なので、課題の対象だけでなく、事例収集などをとおして、導入メリットを複数提示できるように検討していきます。 |
| | | ・スマート農業の進歩は早いと感じた。<br>・省力化の実証はできている。後は、収量性の向上を確実に実証してほしい。 | ご指摘のとおり、技術革新が早いため、常にアンテナを張って新しい技術を普及していきたいと思います。農業者の間でも、収量や品質面でのメリットを求める声があり、コストだけでなく収入面への寄与も検証していきたいと思います。 |
| 令和６年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（実績）<br><br>②「土地利用型園芸品目の定着に向けた要因解析による生産性向上」 | 3.8 | ・土地利用型露地園芸を強化する重要なプロジェクト活動であり、防除の時期と収量の関係を明らかにした点は高く評価できる。<br>・収量が3.4t/10aの事例について、どのくらい売上や収益が高まったのか、関係する農家グループに伝えることで、防除の必要性は急速に広まっていくと思います。 | 農業・園芸総合研究所が作成した「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き」を活用し、収量やコストの増減による売上のシミュレーションが可能です。反収が3.4t/10aの場合の収益性についても、農業者に情報提供していきたいと思います。 |
| | | ・すでに確立している栽培技術の再確認にすぎず、革新的なものとはなっていないと感じます。<br>・ユーザーインの商品を検討し、利益が確保できる販売先への優位性を確保できるように進めていく必要があります。 | 加工用野菜の需要の高まりから園芸推進課が中心となり実需と連携した生産拡大を図っております。そのうち、本プロジェクト課題では、生産者の栽培技術の底上げを行うことで品質や収量の向上を図る取組を行いました。今後は実需者どまりではなく消費者のニーズやトレンドにも視野を広めて関係機関と支援を継続していきたいと思います。 |
| | | ・排水不良で、土が硬いほ場は、たまねぎ、じゃがいもには不適なのでは。暗渠や高畝等、手を加える必要があると思いました。 | ご指摘のとおり、たまねぎ、じゃがいもは水田転作畑での作付けが多く、栽培に適したほ場を選択できないことがほとんどです。排水対策は農業・園芸総合研究所で取り組んでおり、補助暗渠の施行などの現地実証等も行っています。 |
| | | ・気象変動が大きく、ほ場条件も違う中で、収量・品質向上に繋がる現地実証に3品目で取り組んだことに敬意を表する。<br>・各品目で共通に改善すべき点を抽出できたことは評価できるが、うまくいかなかった事例では、他にも複数の要因があったものと思料される。<br>・土壌条件、排水状況等、確認すべき項目を並べたチェックシート等の活用が必要ではないか。 | 園芸推進課が中心となり、実需や関係機関と連携して取組みをすすめており、生産性が上がっていない他の複数の要因については、関係機関と協力して対策を講じているところです。また、他県の資料ですが、岩手県農業研究センターが指導者向けに作成した「水田転換田における野菜栽培の重要管理項目－確認・指導すべき項目のチェックリスト－」を普及指導員等と共有し、活用を提案しております。 |
| | | ・さつまいも、たまねぎは、全県的に拡大していますので、栽培技術の確立に向けて御指導願います。最も重要なのは収量の向上です。 | 関係機関と連携、協力し、品質と収量の向上にむけて、支援を継続していきたいと思います。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 令和７年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（計画）<br><br>①「環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築」 | 3.4 | ・生分解性マルチの導入地域数を定量的目標に掲げているが、サツマイモの収量を定量的目標にすべきではないか。<br>・たとえ環境に配慮した技術であり、マニュアルを作成しても、収量が低いとそのような栽培体系は普及しない。<br>・実需者のニーズに沿った栽培体系の構築が重要であると思います。 | 環境に配慮した栽培体系の構築だけではなく、技術の向上による収量確保も重要な活動テーマであり、一連の支援が技術の向上に繋がるよう、意識して活動したいと思います。<br>また、あらゆる機会を捉えて実需者ニーズの把握に努め、栽培体系への反映を検討したいと思います。 |
| | | ・さつまいもの大きさも、ユーザーインの価値として消費者に選ばれる時代になっています。<br>・さつまいもを作る絶対条件を検討する上で、消費者の求めるニーズや目線を検討する必要があると考えます。<br>・研究ではなくビジネスに直結する取組を進めた方が良いと思います。 | 消費者ニーズを踏まえた生産は、他の品目と同様に課題であり、芋の大きさ（サイズ）が重要な要素となる点について、生産者や関係機関内でも共通認識を持ちつつあります。今後も「生産者の収益向上にどう結び付けていくか」という視点から、取組内容を検討していきたいと思います。 |
| | | ・さつまいもは、砂質を好み温暖な地域で栽培されるイメージがある。<br>・宮城で作るとなれば寒さに強い品種で、海沿いの地域に限定されるのではないか。収穫後の貯蔵も課題だと思う。 | 九州等主産地でのサツマイモ基腐病の蔓延や温暖化の影響もあり、宮城県や福島県でもサツマイモの産地化が進んでいます。また、県内の各地で貯蔵性の向上を図るため、キュアリング施設の設置が進んでいます。 |
| | | ・さつまいもは、生産から販売までたくさんの課題があると考える。<br>・実需者に求められる製品を、どのような規模で、どのように栽培していくか、R7 実証でどの部分を明らかにしていくのか、目標像をしっかりイメージして取り組むことが求められると考える。 | 生産者、流通業者、実需者、関係機関等によるサプライチェーンの構築を推進する県園芸推進課とも連携し、実需者ニーズや生産体系のイメージを踏まえた上での支援活動を心掛けたいと思います。 |
| | | ・さつまいもは収量の安定化とともに、品質の統一が課題となっているので、栽培技術の確立に向けて、省力化や適期収穫等、御指導願います。 | 生分解性マルチを利用することで、収穫前後のマルチ回収等が省力化され、適期収穫の実現も期待されるものと思われます。<br>また、対象農家の出荷実績から生産物の規格割合等も見えてくるものと思われ、今後の課題化に向けて、収量だけではなく品質にも注意しながら支援に取り組みたいと思います。 |
| 令和７年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（計画）<br><br>②「作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用」 | 3.4 | ・労務管理を含む営農全体で、アグリテックの効果が検証されることを期待する。<br>・個別経営の成果を点で繋いでいても普及に時間がかかるので、既に導入している先進事例も参考にして、アグリテックの体系的な活用方法を提示する必要がある。 | 県内では、先進的にスマート農業に取り組む経営体も増えてきていますので、情報収集を怠らず、技術実証と導入事例を組み合わせて、様々な導入メリットを提案できるように努めて参ります。 |
| | | ・一般的に、アグリテック自体が画一化している。農家が使いこなせる状況になっていない。<br>・汎用的に対応できるシステムより、農家個別に、課題にあったオーダーメイド型のアプリケーション構築を望む。<br>・スマート農業技術は、あくまでツールであり、アプリを使いこなすことで農業経営が見える化し、経営戦略に役立てられることが重要。 | 特に先進的な農業者においては、既存のシステムでは細かいところまで手が届かなかったり、機能不足だったりする場合が見られます。一方で、初心者にとっては、汎用的なシステムから使い始めてみて、スマート農業のリテラシーを高めていくステップも重要だと考えます。政策的には、スマート農業の普及拡大が取り上げられますが、あくまでも課題解決のための技術であることを忘れずに、農業経営にどう役立てていけるかという視点で導入を支援していきたいと思います。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・小区画ほ場や山間地、高齢農業者には、アグリテックは難しい。<br>・技術と農業者のギャップを埋める必要がある。 | 中山間地でのスマート農業の活用は、ほ場の大きさや活用面積の面で課題が大きい状況です。高齢化や担い手不足の影響が大きい中山間地にとって、効果的な技術を見極めながら、普及拡大を推進していきたいと思います。 |
| | | ・プロジェクトで取り組む効率的散布、可変施肥、営農管理システムは、いずれも重要な項目である。<br>・この技術を、どのような農業者にどのように使ってもらいたいのか、結果として、農業者の生産性向上、収益向上にどのように繋げられるのかも、あわせて検討してほしい。 | 2 か年の実証結果と導入事例をもとに、技術の導入メリットがある農業者や向かない農業者などを示して、技術導入の際に判断基準になるような情報をあわせて提案していきたいと考えています。 |
| | | ・作業の省力化は、露地野菜でも実証が計画されていますので、他部署との連携をしながら御指導願います。 | RTK システムなどのスマート農業は、露地野菜での導入効果が大きいと考えています。農業・園芸総合研究所などで実証を行っているので、連携しながら、技術の普及拡大に努めて参ります。 |
| その他、本県の農業普及活動に関する御意見、御要望等 | | ・農業普及活動検討委員会の委員に農業経営者が増えてきたことは高く評価します。<br>・農業普及活動は上位下達ではなく、農業経営者を中心に置き、その支援ニーズに応えていくためには何ができるのかを検討することが農業普及活動検討委員会の役割だと考えています。 | 今回、農業経営者の方々から様々な御意見をお聞きすることができ、大変有意義な検討の機会になりました。今後も農業者の方々の要望を把握するための仕組みや環境づくりを進めて参ります。 |
| | | ・生成 AI の時代が到来し、IT や DX 等を活用した農業経営のあり方を宮城県内の農業者に一度しっかりとご理解いただく機会を設ける必要があると感じます。その上で、一部の農業者がさらに進化した仕組みを求めることとなるでしょう。その農業者に対し、宮城県農業改良普及センターが助成を含めて、体系的に支援する仕組みが必要と考えます。<br>・生成 AI を活用する農業者が、さらに生産性を向上させ、未来には大きな利益を積み上げていくことになると考えます。宮城県の農業が他の地域に負けないよう、県が腰を入れてこのような時代変化の中で農業者に対して新しい取り組みを牽引していくことが大事だと考えます。 | 各分野で AI の活用が始まり、作業効率化が図られる事例を目にする機会が増えてきております。現在、全庁的に DX の推進を進めており、「農業経営にどう役立てられるか」という視点を常に持ち、活動を展開していきたいと思います。 |
| | | ・県全体の HP が分かりにくいのですが、農政部の HP でも、各課、各農改等で HP 更新日が新しくなっているので、どこの部分が更新されたのかと、画面上探しても見つけられないことが結構ある。<br>・また、各農改のイベントについて、イベント開催後の記事の掲載は多くあるが、開催前告知の HP 記載はあまり見ないので、開催について、クローズド化しているイメージがある。 | 御指摘していただいた内容を参考に、ホームページの活用も含め、効果的な情報発信の仕方を今後も検討していきたいと思います。 |